特別史跡　西都原古墳群発掘調査報告書　第２集

西都原（さいとばる）13号墳

（墳丘出土古墳時代遺物編）

平成13年３月

宮崎県教育委員会

特別史跡　西都原古墳群発掘調査報告書　第２集

西都原（さいとばる）13号墳

（墳丘出土古墳時代遺物編）

平成13年３月

宮崎県教育委員会

序

県教育委員会では、平成７年度から、文化庁の「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」による助成を得て、西都原古墳群の新たな整備を進めています。

平成９年度から11年度にかけて復元整備を行った13号墳については、平成７年度から９年度にかけて発掘調査を行い、整備の基礎ともなる新たな資料や貴重なデータを得ることができました。

本書では、同調査で得られた様々な資料の中から、古墳の時期を決定し、祭式を推定するために重要な手がかりとなる墳丘出土の土器について報告するものです。埋葬施設や墳丘などの構造については、次年度以降に報告する予定です。

この報告書が研究の分野においてはもちろん、学校教育や生涯学習の場においても活用され、遺跡や文化財に関する理解を広める一助となることを期待いたします。

おわりに、本事業を進めるにあたり、御理解・御協力を賜った地元住民の方々をはじめ、指導委員会の先生方や各関係の皆様に対し、衷心よりお礼申し上げます。

平成13年３月

宮崎県教育委員会

教育長　笹　山　竹　義

例　言

1．本書は、文化庁の「地方拠点史跡総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」による助成を得て、平成７年度から９年度にかけて発掘調査を実施した西都原13号墳の報告書である。本来、遺構編を先に報告すべきであるが、諸般の事情により遺物のみを「墳丘出土古墳時代遺物編」として刊行する。13号墳の発掘調査では、古墳時代以外に古代、中世の遺構・遺物も検出されているが、それらは次に刊行予定の「本編」に掲載する。また、古墳時代の遺物の内、主体部に関わるものも「本編」に掲載予定である。

2．出土土器の実測図は第11図と第12図に掲載しているが、本文中実測図掲載の土器に言及する場合、例えば「土器第12図の13」と表記せず「土器12－13」あるいは「12－13」と表記している。

3．発掘調査は県教育委員会文化課が行った。整理作業については埋蔵文化財センターにおいて実施した。

4．本書の執筆・編集は石川悦雄が行ったが、発掘調査をはじめ遺物整理、実測など多くの方々の協力に支えられている。

5．発掘調査によって出土した遺物や調査時に作成した記録類は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本　文　目　次

第１章　調査の概要 …… 1
第２章　墳丘出土の古墳時代遺物 …… 1
　１　遺物の出土状況 …… 1
　２　遺　物 …… 4
　３　まとめ …… 8

挿　図　目　次

第１図　西都原古墳群分布図（1／20,000） …… 2
第２図　13号墳平面図・調査区及び土器出土位置（1／400） …… 3
第３図　前方部前面二段目テラス土器（第11図１）出土状況（1／20） …… 4
第４図　前方部前面基底部土器（第12図１）出土状況（1／20） …… 4
第５図　前方部Ｔ２墳頂平坦面肩部土器（第11図12）出土状況（1／20） …… 5
第６図　くびれ部墳頂平坦面土器（第12図22）出土状況（1／20） …… 6～7
第７図　くびれ部墳頂平坦面土器（第11図３）出土状況（1／20） …… 8
第８図　後円部墳頂平坦面Ａ・Ｈ群土器出土状況（1／100） …… 9
第９図　後円部墳頂平坦面Ａ群土器（第11図16）出土状況（1／20） …… 9
第10図　後円部墳頂平坦面Ｈ群土器（第11図16，第12図23～27）出土状況（1／20） …… 9
第11図　出土土器①（1／4） …… 10
第12図　出土土器②（1／4） …… 11

表　目　次

第１表　13号墳墳丘出土土器観察表 …… 12～13

図　版　目　次

図版１　①くびれ部土器（第12図22）出土状況（前方部から） …… 14
図版１　②くびれ部土器（第12図22）出土状況（後円部から） …… 14
図版２　①くびれ部土器（第12図22）出土状況 …… 15
図版２　②くびれ部土器（第12図22）出土状況（崩落物除去後） …… 15
図版３　①前方部前面二段目テラス土器（第11図１）出土状況 …… 16
図版３　②前方部Ｔ２墳頂平坦面肩部土器（第11図12）出土状況 …… 16
図版４　①くびれ部土器（第11図３）出土状況 …… 17
図版４　②後円部墳頂Ａ群土器（第11図16）出土状況 …… 17
図版５　１３号墳出土土器 …… 18

第１章　13号墳の概要

西都原13号墳は台地上位面の南端、西都原古墳群の通称第１古墳群に所在する前方後円墳である（第１図）。周溝、墳丘及び主体部の復元整備を目的として平成７年度に範囲確認調査、平成 8、9年度に主体部及び墳丘等の構造確認調査を実施し復元データを得た。

13号墳はほぼ南北に主軸を持ち、全長は79.4ｍ、主軸直交部分の後円部径43.2ｍ、くびれ部基底からの前方部長38.6ｍ、くびれ部基底幅18.4ｍ、前方部前面幅25ｍの規模を持つ。墳丘は前方部、後円部とも三段築成で、１ｍ内外の幅を持つテラスは一段目、二段目とも不整合無く全周する。墳丘斜面には拳大から掌大の川原石を用いた葺石が葺かれ、テラスには葺石より小振りの円礫が敷かれていた（第２図）。埋葬主体は礫で覆われた粘土槨で、主軸からほぼ45°北西に振った方向に構築されている。粘土槨の棺床は小円礫が平らに敷かれているが、棺側に充填されたとみられる粘土や礫の状態から割竹形木棺が置かれていたと判断された。木棺の規模は不明だが、粘土槨の棺床は内法で長さ約6.8ｍ、幅50㎝である。墳丘の西側には不整形の周溝が掘られていた。

第２章　墳丘出土の古墳時代遺物

１　遺物の出土状況（第２図～第10図）

13号墳に伴う遺物には、副葬品と碧玉製の紡錘車を除けば、土師器の壺、高坏がある。周溝はほぼ完掘に近いが墳丘については調査を実施した面積が墳丘全体の約五分の一という事情もあり、墳丘及び周溝から検出できた土器はそれほど多くはない。整備工事時の表土梳きとりにより発見されたものも多いが、この種の土器片は採集のレベルに留まり、出土位置もおよその地点を押さええただけである。

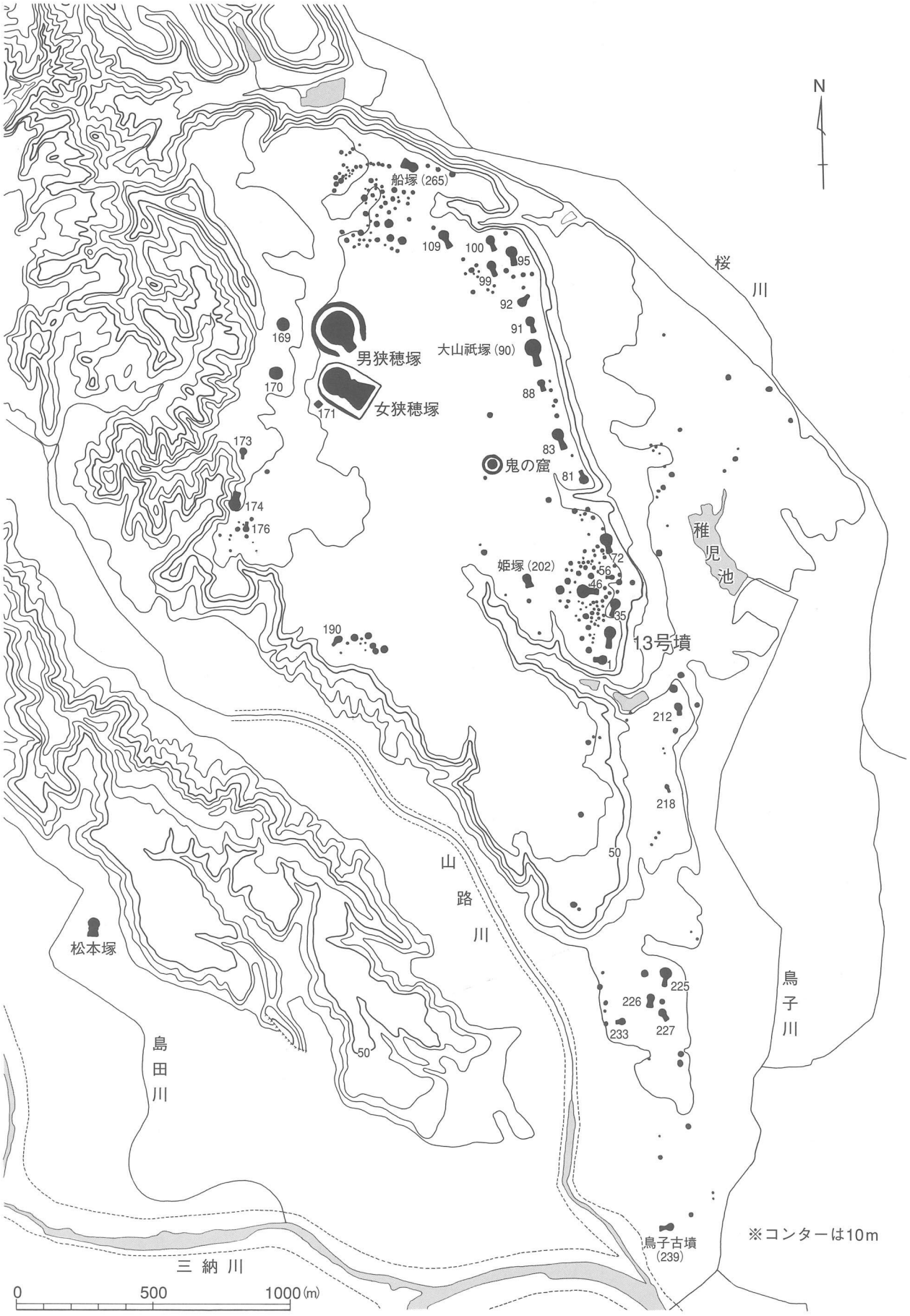
出土土器片の殆どは比較的小さな破片で、斜面やテラスの流土中に崩落葺石と混在した状態で検出されたものが多い。確実に原位置を留めるものは、わずかにくびれ部墳頂スロープ端で検出された底部穿孔の壺下半部のみであった（第６図、第12図22）。墳頂平坦部以外のテラスなどに土器が置かれていた状況は積極的には認めがたい。図化し得た土器に限れば、穿孔された底部は後円部墳頂平坦面に多く、二重口縁壺の口縁部は前方部に多く検出されたという傾向が見られるものの、高坏、二重口縁壺、単口縁壺、底部穿孔、非穿孔など器種や属性の違いによって置かれる部位が異なる状況は顕著ではなかった。

土器の接合は、基本的には近接したもの、若しくは墳頂から基底部に至る崩落軌跡上の一群が接合する状況が認められるが（表１－１，４，18，34，37～39）、12－14の壺形土器底部のように前方部中程と前面という風にかなり離れた地点で接合する例もある（表１－２，24）。

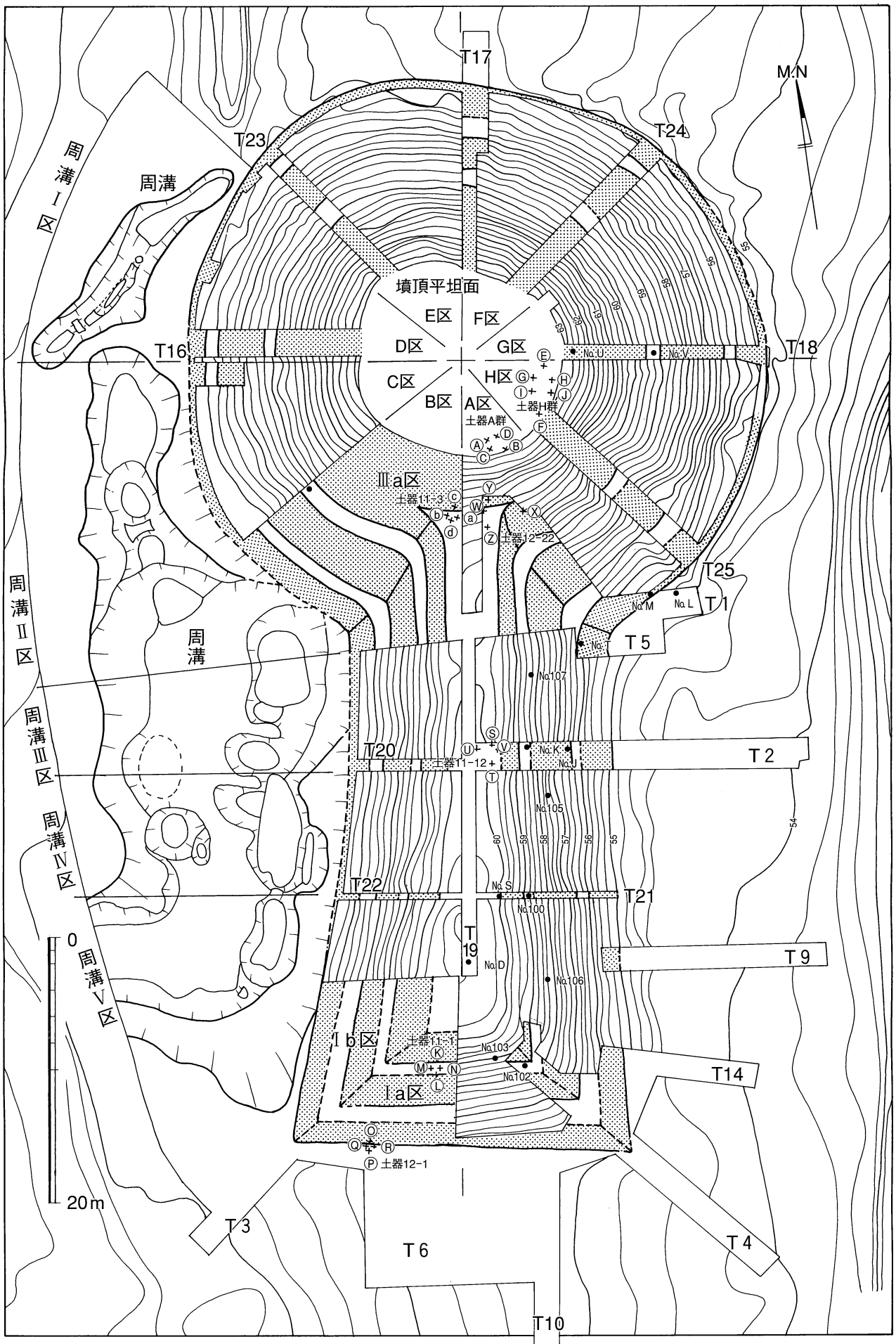
土器12－１は前方部前面Ⅰａ区の基底部根石付近の黒褐色流土中から出土した。基底面から約25㎝ほど浮いた状態で検出し、前面東側三段目斜面流土中から検出した破片と接合することから、元々は前方部前面墳頂に置かれていたと判断される（第４図）。

土器11－１は同じくⅠａ区二段目テラスの敷石上もしくは転石中で検出した。テラスそのものは肩部が流れて水平を保っておらず、接合できる破片もテラスより下位の位置から出土したので、土器が原位置を保っているか否かの確証が得られなかった（第３図）。

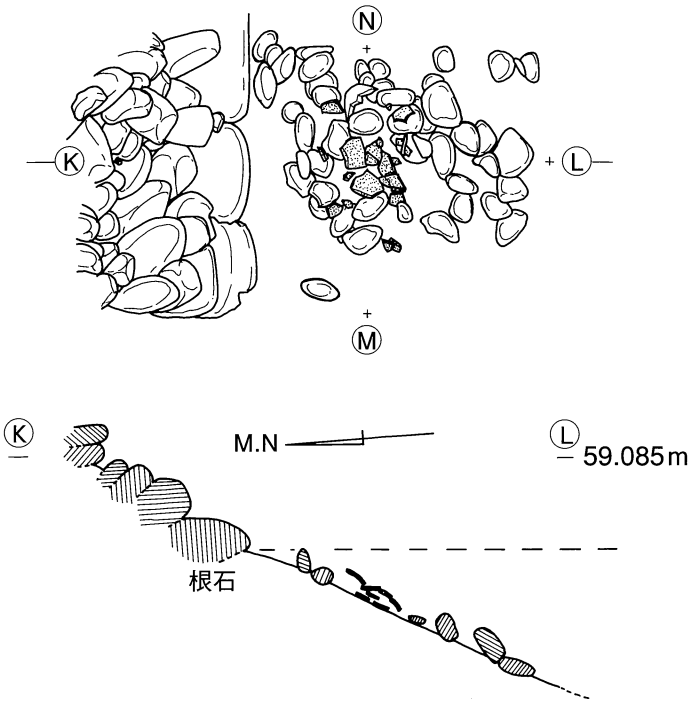
土器11－３は前方部が後円部へ接続するスロープ根石前から出土した。底部は墳丘に密着しているが、



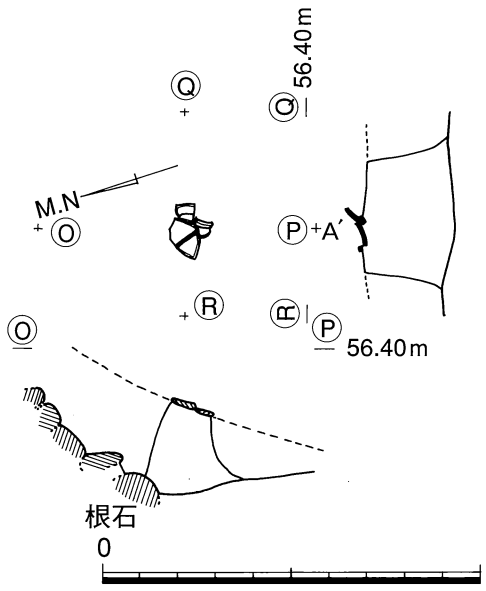
第１図　西都原古墳群分布図（1／20,000）



第２図　13号墳平面図・調査区及び土器出位置（1／400）



第３図　前方部前面二段目テラス土器
（第11図－1）出土状況（1／20）



第４図　前方部前面基底部土器
（第12図－1）出土状況（1／20）

胴部片は黒褐色流土中にある。土器12－22と対になる位置に存在するが、設置のための掘り込みは認められなかった（第７図）。後円部墳頂から転落した可能性も捨てきれない。

土器11－12は前方部トレンチＴ２の墳頂肩部敷石中から検出された。底部は正立しており、原位置を保っている可能性はあるが、肩部が沈下しており、掘り込み等も確認できなかったので確証は得られなかった（第５図）。土器12－22は前方部と後円部が接続するくびれ部のスロープ東側根石際で検出した。この部分は葺石、敷石をはじめ墳丘構造の保存が良好で、土器設置の掘り込みも明確な形で遺存していた。掘り込みの表面には小振りの円礫が幾つか配置されていて、土器の安定を図った様子が伺えた。又、そのことは、土器の配置が敷石を敷いた後に行われた可能性を示唆している。この土器は胴部中位の破片や内部に有る崩落葺石の状態から、配置後内部に土が充満する程度の時間大きく破壊されることなく立っていたとみられ、最後に胴上半部以上の部位がおそらく葺石や流土に押されて流下したものと考えられる（第６図）。しかし、その破片は検出することができなかった。

後円部墳頂平坦面ではＡ区とＨ区で比較的集中して壺形土器の底部片が出土した（第８～10図）が、それら（11－16，12－23，24，26，27）は、中世の土器片と混在するなど表土下攪乱層と判断される検出状況のため、墳頂平坦面端部に壺形土器が数メートル間隔で置かれていた状況は、ある程度推察できるものの、配置の具体像は提示できない。

２　遺　物（第11図、第12図、表１）

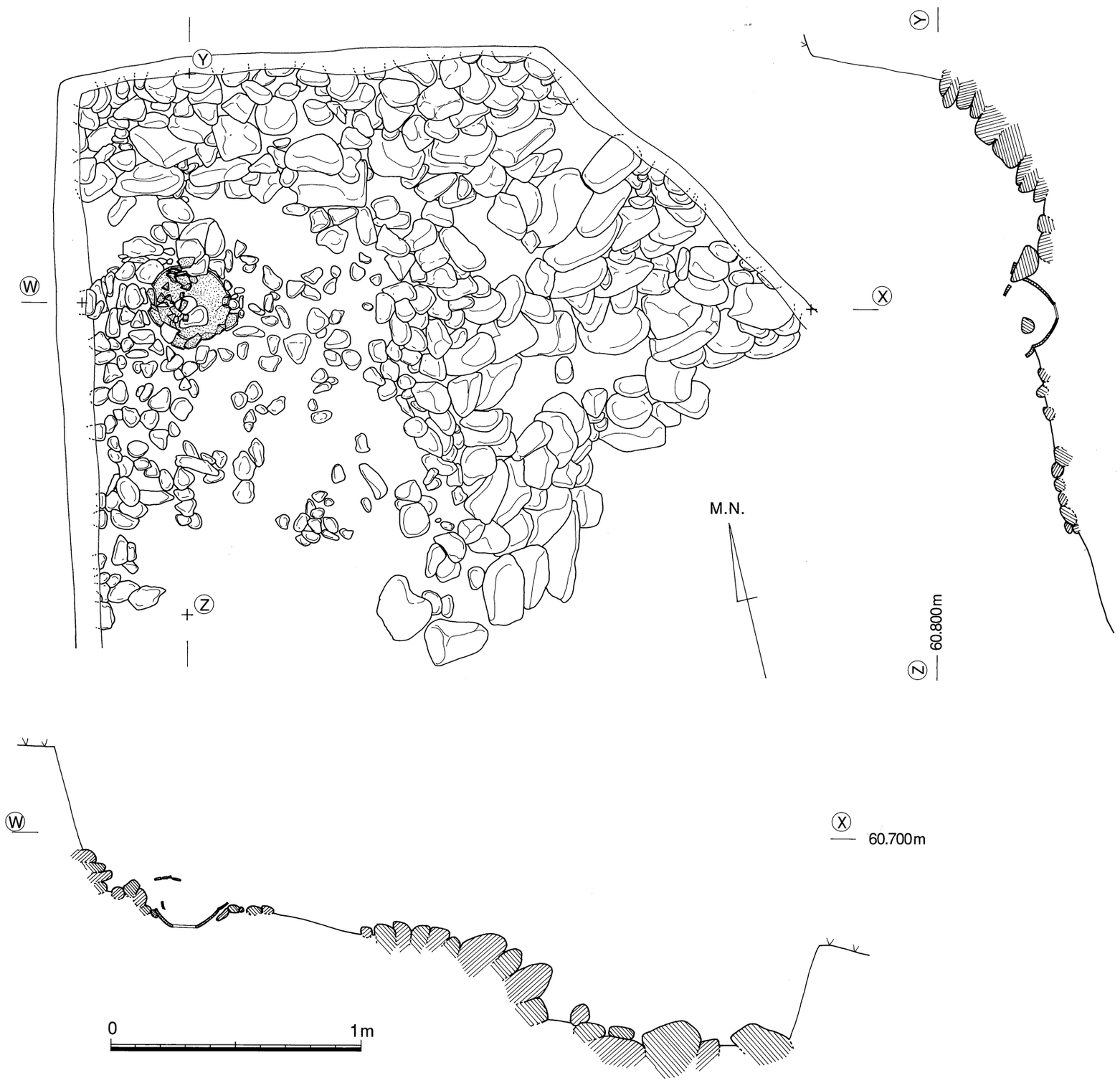
図化しえた土器の数は56点にとどまる。（同一個体の可能性のある土器５点がふくまれるので総数51

第５図　前方部Ｔ２墳頂平坦面肩部土器（図11－12）出土状況（1／20）

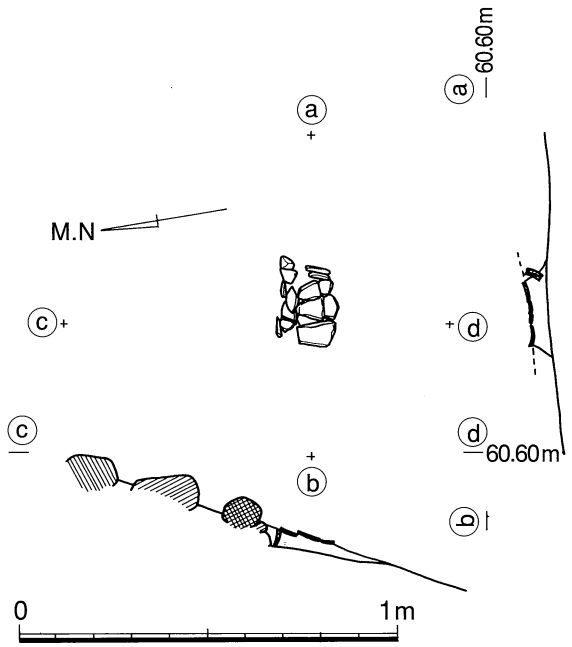
点程度と考えられる。）出土した土器の大部分は壺形土器である。高坏は６点だけ図化できた。

壺形土器　（第11図１～19，第12図１～31）

壺形土器には単口縁壺と二重口縁壺がある。二重口縁壺には全体形がわかるものが無いが、12－１～13は口縁部片で、口縁が長く外反するもの（12－３，10など）や短いもの（12－１，７）などバリエーションが豊富である。小破片から反転復元したために、口径や傾きにやや不安が残る。12－１は最も全体形の明瞭な壺で、ややエンタシス状の頸や短く水平に伸びた受け部と短く外反した口縁部が特徴的である。２は小破片で、おそらく直立する分厚い口縁部をもつ壺と推定される。単口縁壺には全体形のわかるもの（11－１～３）がある。11－２は丸底で短く外反する口縁を持つ。胴部外面は叩きのあとナデ消しされている。これらの土器から見る限り、単口縁壺の底部は穿孔されていない。また、底部



第６図　くびれ部墳頂平坦面土器（第12図－22）出土状況（1／20）



第７図　くびれ部墳頂平坦面土器（第11図-3）
出土状況（1／20）

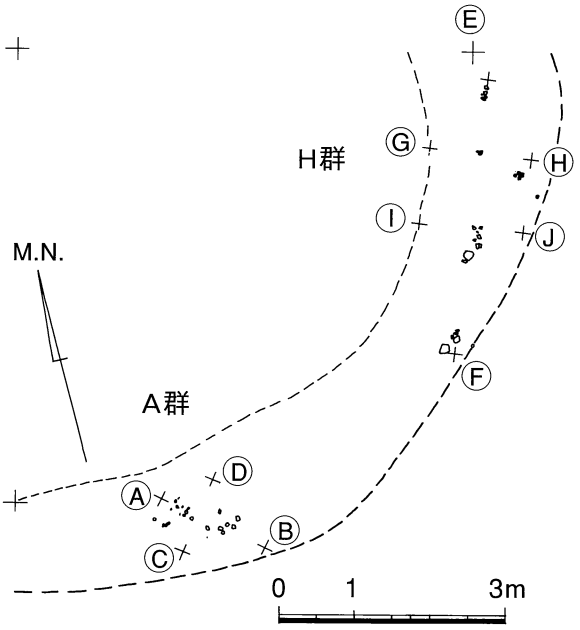
から胴下半にかけての傾斜も、特に内面で緩やかである。

高　　坏（第11図20～25）

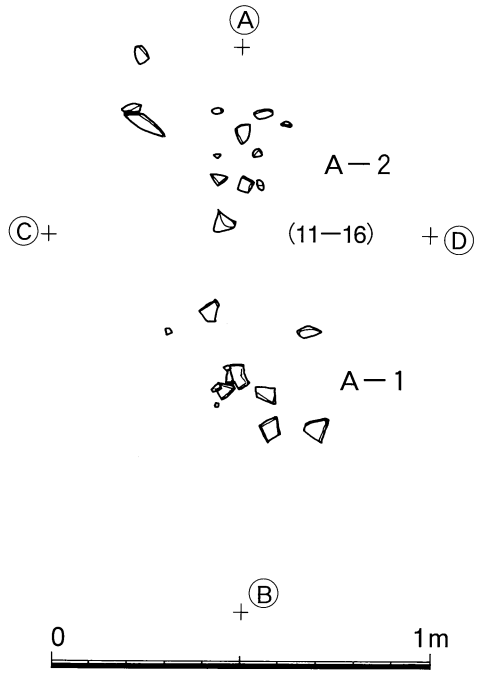
高坏には短脚のもの（11－24）と長脚のもの（11－20，21，23，25）がある。接合である11－21を除いて脚部と坏部の結合は差込で形成されている。11－20は全体形のわかる唯一の高坏で、脚内面上半部を除いて赤色顔料が塗布されている。受け部と口縁部の境が不明瞭で、口縁下には１条の沈線が施されている。脚裾もまたメリハリ無く外反する。

３　まとめ

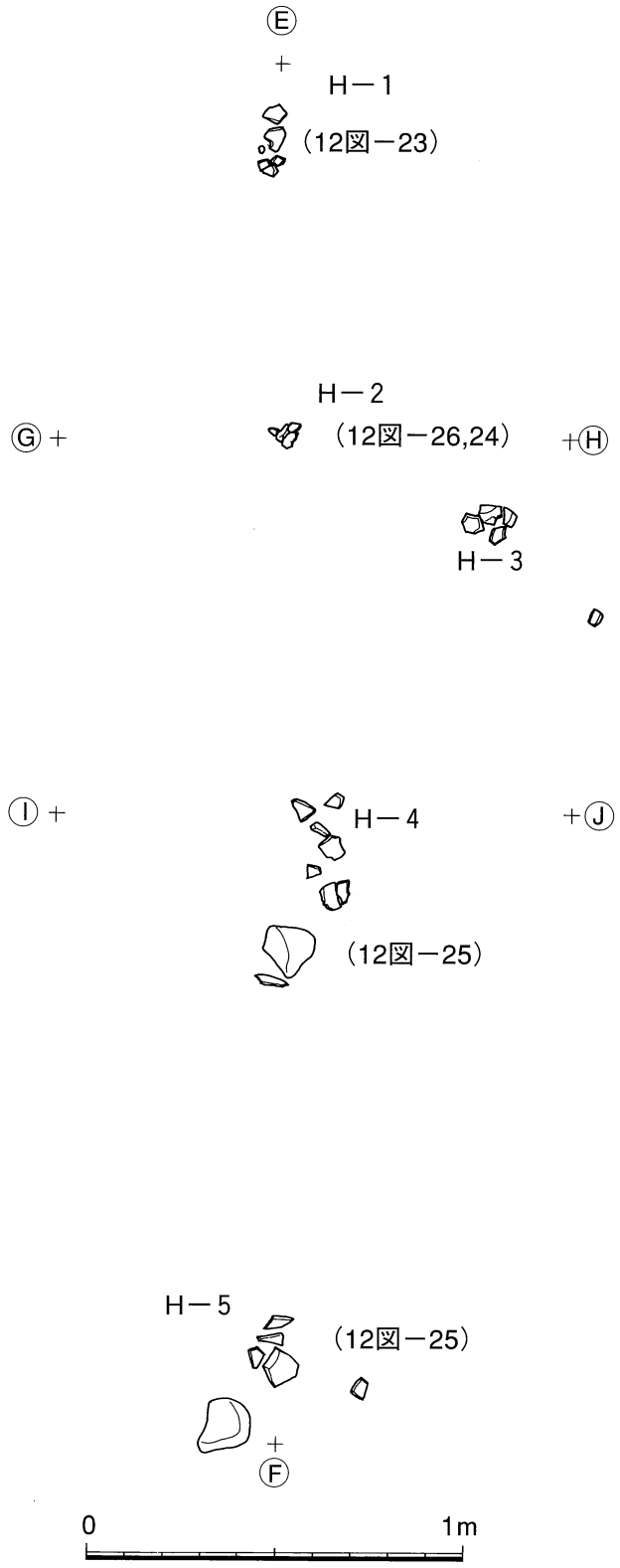
壺形土器の器面調整は基本的に内面が刷毛目及び指頭痕を残すナデ、オサエであり、外面が胴部から口縁にかけてがナデ、底部付近が指頭ナデである。一部の壺胴部には叩き痕が残るので、薄手の器壁を持つ壺は１次調整として叩きが施された可能性がある。壺底部片は、大まかには４形態に区分できる。１類は丸底もしくは殆ど丸底に近い平底（11－1，2，8，9，11）、２類は底部充填の上げ底状平底（11－3，10，12～15）、３類は２類の成形で底部を完全に充填させずに孔を作り出すもの（12－14～21，23～31）、４類は丸底に穿孔を施すもの（12－22）である。これらのうち、非穿孔の１類と２類は11－1，2，3のように単口縁壺の底部と考えられる。３類及び４類は二重口縁壺の底部になる可能性が高い。２類と３類の底部形成手法は、基本的には同一と考えられる。どちらも粘土紐を積み上げて底部を形成した後粘土を充填し、底面を形成する手法であるが、２類は完全に充填するのに対し、３類は底面の中心を充填せずに孔として残すところに違いがある。墳墓における祭式のなかでの土器のありかたの変遷を単純化して考えれば、まず最初に破砕があり、次に底部の焼成後穿孔、焼成前穿孔と変遷し、最後に最初から底部を作らないということになるかと考えられる。それぞれの段階で墳墓祭式への関わり方も変化していると思われるが、実際の行為から行為の仮託、シンボル化がそこに反映していると考えてもよいだろう。完全なものを壊すという行為あるいは、そのことへのこだわりが残る底部穿孔という行為からの脱却として、３類の成立を考えたいが、同時にこの段階から壺形埴輪とよぶべきではないかと考える。壺形土器、壺形埴輪という呼称の問題は、墳墓祭式のありかた全体から考えなければならない問題だが、今回は素朴な問題提起にとどめたい。土器の時期比定も11－20の高坏脚のメリハリの欠如や12－22の壺に見られる長胴化、12－2の直立する分厚い二重口縁の存在、12－1のエンタシスを呈する頸などの新しい様相などから、前方後円墳集成の三期末から四期前半の枠内で考えておきたい。



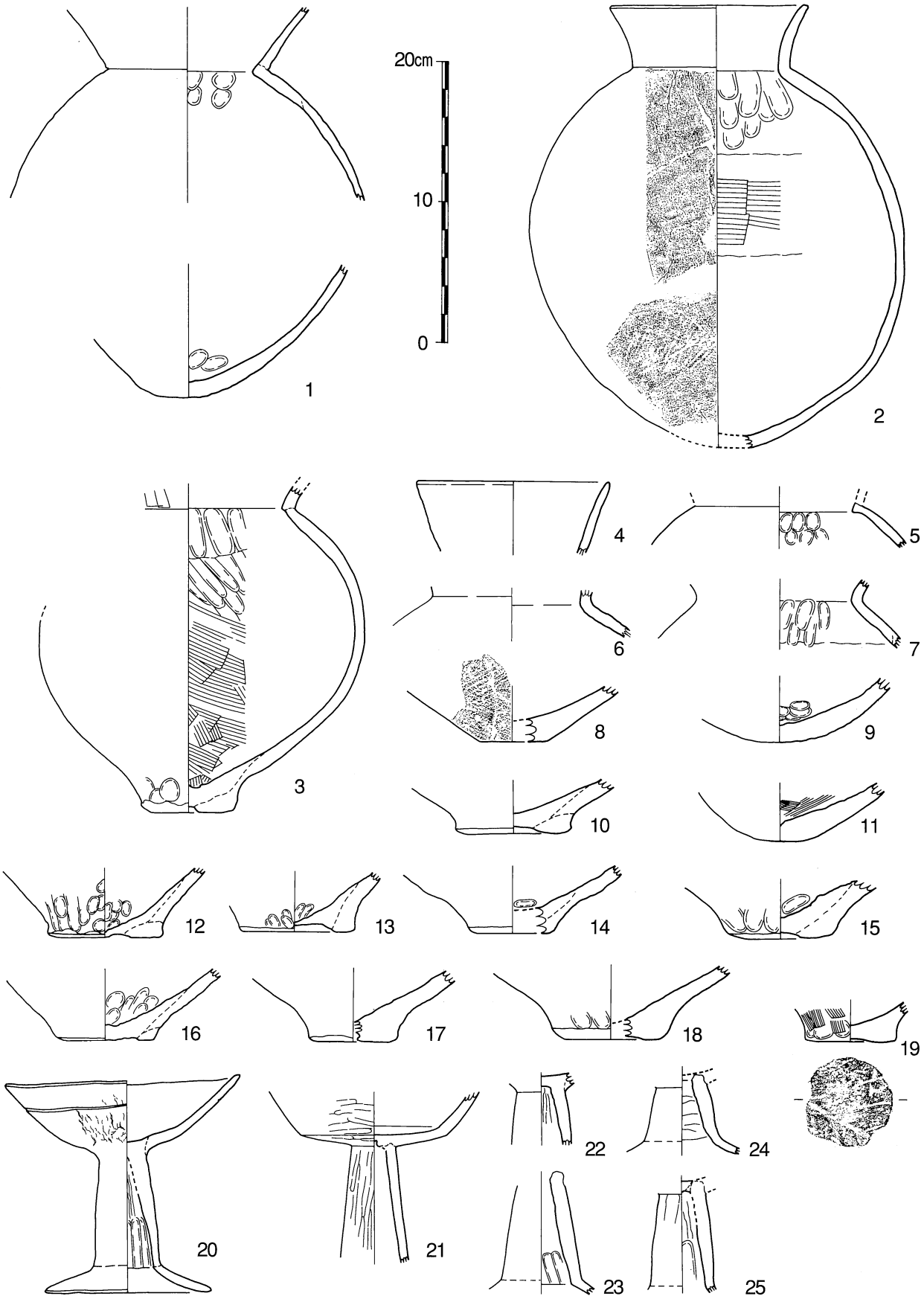
第８図　後円部墳頂平坦面Ａ・Ｈ群土器
出土状況（1／100）



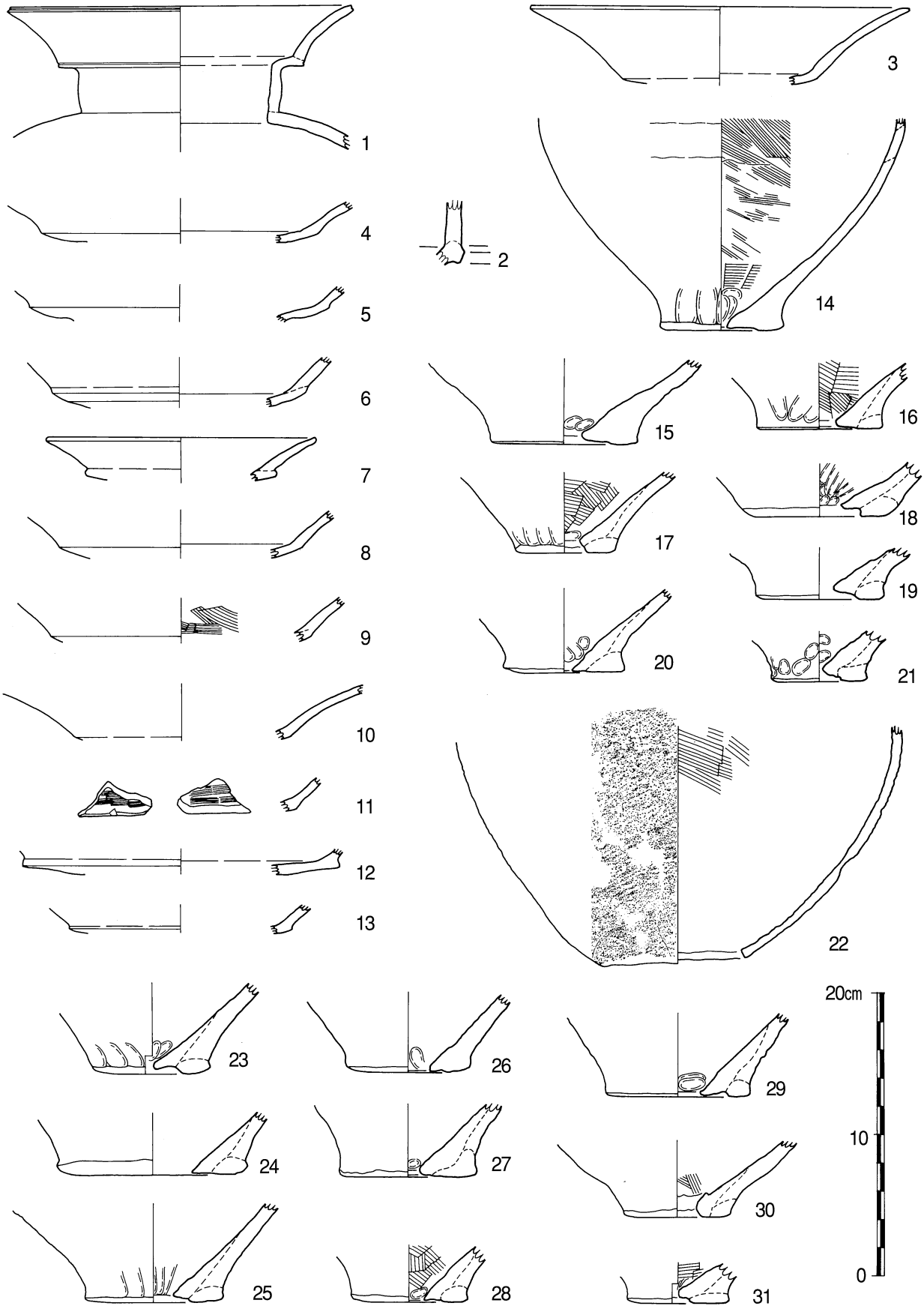
第９図　後円部墳頂平坦面Ａ群土器
（第11図－16）出土状況（1／20）



第10図　後円部墳頂平坦面Ｈ群土器
（第11図－16, 第12図23～26）
出土状況（1／20）



第11図　出土土器①（1／4）



第12図　出土土器②（1／4）

第1表　13号墳墳丘出土土器観察表

番号	実測図番号	図面番号	器種	部位	遺存度	出土位置 部位	出土位置 地区	出土位置 層位等	接合関係 部位	接合関係 地区	接合関係 層位等	胎土	色調 内面	色調 外面	焼成	保存	調整 内面	調整 外面	備考
1	9	12-1	2重口縁壺形土器	口縁部～肩部	口縁部1/7,頸部1/2	前方部	Ⅰa	基底根石前	前方部 前方部 前方部	Ⅰa 前面東 Ⅰb	2段目転石中 3段目斜面土中 1段目テラス上面	2㎜以下の砂粒を多く含む	浅黄	橙	堅緻	内面風化	ナデ？	ナデ？	土器№103
2	7	12-14	壺形土器	底部	10/10	前方部	前面東	2段目テラス根石際№102	前方部	東T2～T21間	3段目～2段目斜面流土中№104,№105	3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	風化	斜め刷毛目指頭押圧	ナデ指押え	土器№102,104,105 底部穿孔：径9㎜ 胴部赤色顔料付着
3	42	11-13	壺形土器	底部	10/10	前方部	前面東	3段目斜面流土				4㎜以下の砂粒を含む	橙	橙	良好	風化	指頭押圧、指ナデ	ナデ	底部非穿孔 土器№103
4	51	11-1	単口縁壺	底部～口縁部	底部ほぼ完頸部1/2	前方部	Ⅰa	2段目テラス敷石上	前方部	Ⅰa	2段目斜面転石中	3㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	堅緻	やや風化	指頭押圧、横ナデ	ナデ	底部非穿孔
5	11	11-5	単口縁壺	肩部	1/5	前方部	Ⅰa					2.5㎜以下の砂粒を含む	灰白	浅黄橙	良好		指頭押圧、ナデ	横ナデ	
6	22	12-2	2重口縁壺形土器	口縁部	小破片	前方部	Ⅰa	流土中				1㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	風化	指押さえ、刷毛目痕跡	ナデ	
7	12	11-6	単口縁壺	頸部～肩部	1/4	前方部	Ⅰb	1段目斜面流土				1㎜～3㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐	橙	良好	風化	粗いナデ	粗いナデ	
8	39	12-16	壺形土器	底部	1/8	前方部	東隅角	3段目斜面葺石上				3㎜以下の砂粒を少量含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	横刷毛目	刷毛目の後ナデ	底部穿孔 推定径1㎝
9	32	11-9	壺形土器	底部	5/6	前方部	東隅角	3段目斜面流土				5.5㎜以下の小石砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	指頭押圧、ナデ	ナデ	丸底非穿孔
10	54	12-17	壺形土器	底部	底部ほぼ完	前方部	T2	2段目テラス端土器№K				2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	刷毛目	ていねいなナデ、指頭押圧	土器№K 底部穿孔径：2.3×1.7㎝
11	20	12-5	2重口縁壺形土器	口縁部	1/8	前方部	T2	2段目斜面土器№J				7㎜以下の石粒と砂粒を含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	やや風化	ナデ？	横ナデ	土器J,17,21と同一個体か？
12	21	12-4	2重口縁壺形土器	口縁部	1/11	前方部	T2	2段目斜面				7㎜以下の小石、砂粒を含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	良好	ナデ指頭押圧	ナデ	土器J,17,20と同一個体か？
13	17	12-6	2重口縁壺形土器	口縁部	1/12	前方部	T2	2段目斜面				3.5㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	やや風化	横刷毛目の後横ナデ	横ナデ	土器J,20,21と同一個体か？
14	34	11-12	壺形土器	底部	10/10	前方部	T2	墳頂平坦部肩				4㎜以下の砂粒を多く含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	良好	指頭押圧、ナデ	指頭おさえナデ	土器№30 底部非穿孔
15	57	12-15	壺形土器	底部	1/2	前方部	東T21～T14間	2段目斜面流土№106				4㎜以下の砂粒を含む	黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	ナデ	ナデ	土器№106 底部穿孔：径4.5㎝×2.6㎝
16	33	11-8	壺形土器	底部	1/4	前方部	東	3段目斜面流土				2㎜以下の砂粒を含む	黄灰色	にぶい橙	良好	良好	ナデ	叩き	非穿孔
17	14	12-3	2重口縁壺形土器	口縁部	1/6	前方部	T21	2段目テラス上				3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	橙	良好	風化	ナデ	ナデ	土器№100
18	56	12-20	壺形土器	底部	3/4	前方部	T21	墳頂平坦面肩	前方部	東	墳頂平坦面杭№7と8の間	5㎜以下の小石、砂粒を含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	良好	粗いナデ指頭押圧	粗いナデ	土器№S 底部穿孔：径1.4×2.7㎝
19	49	12-18	壺形土器	底部	1/11	前方部	T19南端	墳頂平坦面敷石中土器№D				3㎜以下の砂粒を多く含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	良好	指頭押圧、指ナデ	ナデ	土器№D、赤色顔料付着 底部穿孔：径推定2㎝
20	37	11-10	壺形土器	底部	1/4	前方部						3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	内面剥離	ナデ	ナデ	底部非穿孔
21	4	11-3	単口縁壺	底部～頸部	底部ほぼ完胴部1/6頸部1/10以下	前方部(くびれ部)	スロープ	墳頂平坦面	前方部 前方部(くびれ部) 後円部 周溝	東 スロープ Ⅲa	3段目斜面流土中 墳町平坦面根石南2m 3段目斜面 埋土№22,№27	2㎜以下の砂粒を含む	黄灰	浅黄橙	良好	良好	指ナデ横刷毛目	指押さえナデ、ナデ、原体ナデ	口縁部内外胴部外面赤色顔料付着 底部非穿孔
22	8	12-22	2重口縁壺形土器	底部～胴部	胴中位までほぼ10/10	前方部(くびれ部)	スロープ	墳頂平坦面根石前原位置				3㎜以下の砂粒を多く含む	橙	橙	良好	風化	斜め刷毛目ナデ	斜め叩きナデ	底部穿孔（焼成後？） 径9.3×7.5㎝
23	48	12-19	壺形土器	底部	1/4	前方部(くびれ部)	東1段目テラス端から2m前方部寄り	1段目斜面流土				5㎜以下の小石、砂粒を多く含む	浅黄橙	浅黄橙黄灰	良好	風化			土器№T 底部穿孔有無不詳
24	3	11-2	単口縁壺	底部～口縁部	ほぼ復元完形(底部,胴部一部欠)	くびれ部	T5		周溝	Ⅳ区	埋土	5㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙	橙	堅緻	良好	指頭押圧、ナデ、横刷毛目	叩きの後ナデ消し	周溝19、周溝23、Ⅳ区10 底部非穿孔
25	19	12-8	2重口縁壺形土器	口縁部	1/6	くびれ部	東	3段目斜面流土				4㎜以下の砂粒を多く含む	橙	橙	良好	風化	粗いナデ	粗いナデ	
26	15	12-7	2重口縁壺形土器	口縁部	1/6	くびれ部	東	3段目斜面流土				3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙	良好	風化	ナデ	ナデ	
27	13	11-4	単口縁壺	口縁部	1/8	後円部(くびれ部)	Ⅲa	2段目テラス敷石上				1㎜～3㎜の砂粒を多含む	橙	橙	良好	良好	横ナデ	押さえナデ	傾き、径不確実
28	23	12-9	2重口縁壺形土器	口縁部	1/8	後円部(くびれ部)	Ⅲa	2段目テラス転石中				1㎜以下の砂粒を含む	橙	橙	良好	良好	刷毛目の後ナデ	ナデ	赤色顔料、24,25と同一個体か？
29	24	12-11	2重口縁壺形土器	口縁部	小破片	後円部(くびれ部)	Ⅲa	2段目テラス転石中				4㎜以下の砂粒を含む	橙	にぶい橙		良好	横刷毛目	横刷毛目	23,25と同一個体か？

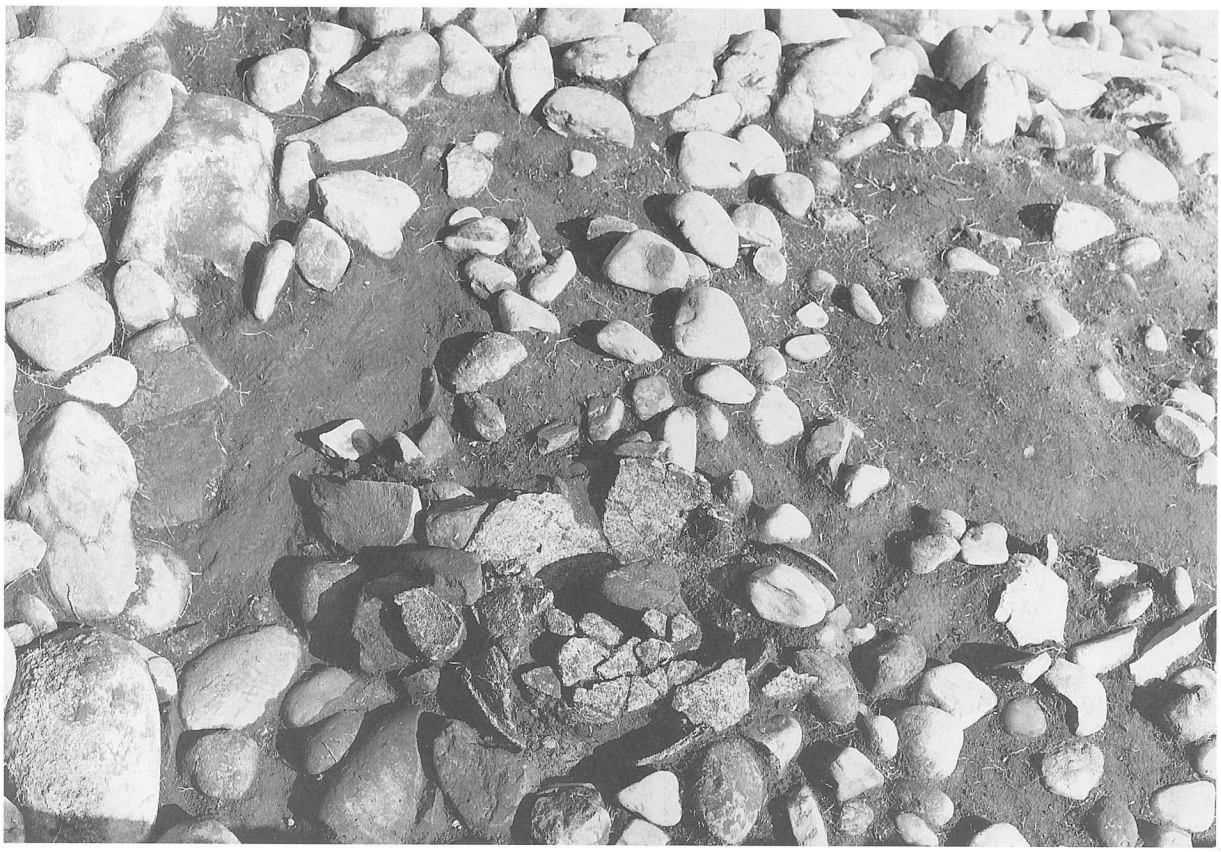
番号	実測図番号	図面番号	器種	部位	遺存度	出土位置			接合関係			胎土	色調		焼成	保存	調整		備考
						部位	地区	層位等	部位	地区	層位等		内面	外面			内面	外面	
30	25	12-10	2重口縁壺形土器	口縁部	1/9	後円部(くびれ部)	Ⅲa	2段目テラス転石中				4㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙	橙		良好	ナデ	ナデ	23,24と同一個体か？
31	50	12-21	壺形土器	底部	1/7	後円部(くびれ部)		2段目テラス転石中				2㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	良好	ナデ 指頭押圧	叩きの後ナデ消し指頭押圧	くびれ部やや後円部寄り 底部穿孔：径推定2.5cm
32	16	12-12	2重口縁壺形土器	口縁部	1/10	後円部	南西部	斜面				3㎜以下の砂粒を多く含む	橙	橙	良好	やや風化	ナデ	ナデ	
33	45	11-15	壺形土器	底部	1/3	後円部	墳頂平坦面A区	表土一括				3.5㎜以下の砂粒を含む	褐灰	橙	良好	良好	粗いナデ	叩きの後ナデ	底部非穿孔
34	41	11-16	壺形土器	底部	底部完	後円部	墳頂平坦面A区	表土下A－1	後円部	墳頂平坦面A区	表土下一括	4㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙	橙	良好	やや風化	指頭押圧、ナデ	叩きナデ消し	底部非穿孔 土器A－1，A－2，H－4，土器№S A区表土下一括
									後円部	墳頂平坦面H区	H－4								
									後円部	T18	3段目斜面土器№S								
35	18	12-13	2重口縁壺形土器	口縁部	1/12	後円部	墳頂平坦面D区	表土下一括				5㎜以下の砂粒を多く含む	黄橙	浅黄橙	良好	風化	ナデ？	ナデ？	
36	38	12-24	壺形土器	底部	1/3	後円部	墳頂平坦面H区	H－2				5㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	一部風化	ナデ 指頭押圧	ナデ	底部穿孔：径不詳（小） 土器H－2
37	35	12-27	壺形土器	底部	1/3	後円部	墳頂平坦面H区	表土下H－4	後円部	墳頂平坦面H区	表土下4－2	2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	やや風化	ナデ、原体ナデ 指頭つまみ	ナデ？	38と同一か？ 底部穿孔：推定径2㎝
38	52	12-23	壺形土器	底部	底部ほぼ完	後円部	墳頂平坦面H区	表土下H－1	後円部	墳頂平坦面F区	表土下一括	3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	やや風化	粗いナデ 指頭押圧	ナデ、粗いナデ	土器H－1 底部穿孔：径2.0cm×1.1cm
									後円部	墳頂平坦面I区	表土下一括								
39	44	12-26	壺形土器	底部	1/6	後円部	墳頂平坦面H区	表土下H－2	後円部	墳頂平坦面E区	表土一括	3.5㎜以下の砂粒を含む	にぶい橙	浅黄橙	良好	良好	ナデ	ナデ	底部穿孔：推定径2.5cm
40	53	12-25	壺形土器	底部	底部ほぼ完	後円部	墳頂平坦面H区	表土下H－4	後円部	T24	3段目斜面墳頂平坦面肩近く	5㎜以下の小石、砂粒を多く含む	灰黄	にぶい黄橙	良好	風化	ナデ？	粗いナデ	底部穿孔：径約3㎝
						後円部	墳頂平坦面H区	表土下H－5	後円部	Ⅲa	北端2段目テラス土器№P								
41	58	12-30	壺形土器	底部	1/5	後円部	墳頂平坦面	主体部埋戻土中				3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	刷毛目、ナデ	粗いナデ	底部穿孔：径約1㎝
42	55	12-28	壺形土器	底部	底部ほぼ完	後円部	墳頂平坦面	主体部埋戻土				3.5㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	刷毛目 指頭押圧	ナデ	底部穿孔：径3.2cm×2.1cm
43	47	11-14	壺形土器	底部	1/4	後円部	墳頂平坦面	主体部埋戻土				3㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	風化	ナデ、指頭押圧	ナデ	底部穿孔有無不明
44	43	11-18	壺形土器	底部	1/2	後円部	T18	2段目テラス密着土器№V				5㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	指頭押さえ、ナデ	ナデ	底部非穿孔
45	59	12-31	壺形土器	底部	1/2	後円部	T25	2段目テラス流土				3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	刷毛目、ナデ	ナデ	底部穿孔：径1.5cm
46	36	11-17	壺形土器	底部	1/3	後円部	北北東	2段目テラス流土				2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	浅黄橙	良好	やや風化	ナデ？	ナデ？	底部非穿孔
47	46	12-29	壺形土器	底部	1/4	後円部	東	2段目テラス流土				3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	やや風化	ナデ 指頭押圧	ナデ？	底部穿孔：径3.2cm程度
48	31	11-11	壺形土器	底部	10/10	不明						5㎜以下の小石、砂粒を多く含む	灰白	にぶい黄橙	良好	良好	ナデ、刷毛目	ナデ	丸底非穿孔
49	40	11-19	壺形土器	底部	10/10	不明						6㎜以下の小石、砂粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	原体押さえナデ、指ナデ	斜め刷毛目	底部非穿孔 木の葉底
50	10	11-7	単口縁壺	頸部～肩部	1/5	周溝	Ⅲ区	埋土				2㎜以下の砂粒を含む	灰白	橙	良好	良好	指頭押圧、ナデ	ナデ	
51	29	11-22	高坏	脚部	1/2	前方部	東	2段目斜面				1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	ナデ、絞り痕	ナデ	土器№107
52	30	11-23	高坏	脚部	1/2	くびれ部	T1西側	黒色流土転石中				1㎜以下の砂粒を多く含む	明黄褐	明黄褐	良好	良好	指ナデ	ナデ	
53	26	11-21	高坏	受部～脚部		くびれ部	T1東	基底根石隣接地山密着（土器№L、N）	くびれ部	T1西側	黒色流土転石中	1.5㎜以下の砂粒を多く含む	明黄褐	にぶい橙	良好	良好	受部：丁寧なナデ 脚部：指ナデ	丁寧な磨き	C4,C6,C8と同一個体か？
									後円部	T25	基底部倒木痕埋土								
54	6	11-20	高坏	口縁部～脚裾部	ほぼ復元完形	後円部	T18	墳頂平坦面肩に近い3段目斜面土器№U				精選、砂粒は1㎜以下	黄橙	黄橙	良好	良好	受部：ナデ 脚部：指ナデ 脚裾：横ナデ、 脚内面：絞り痕、指頭圧痕	丁寧な横ナデ	外面全面、内面は脚裾中位指ナデ部まで 赤色顔料塗布
55	28	11-24	高坏	脚部		周溝		№20				2㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙	浅黄橙	良好	やや風化	横方向削り、指ナデ	丁寧な押さえナデ	周溝№20
56	27	11-25	高坏	脚部		不詳						3㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良好	良好	指ナデ 絞り痕	丁寧なナデ	

図版1

①くびれ部土器（第12図22）出土状況（前方部から）

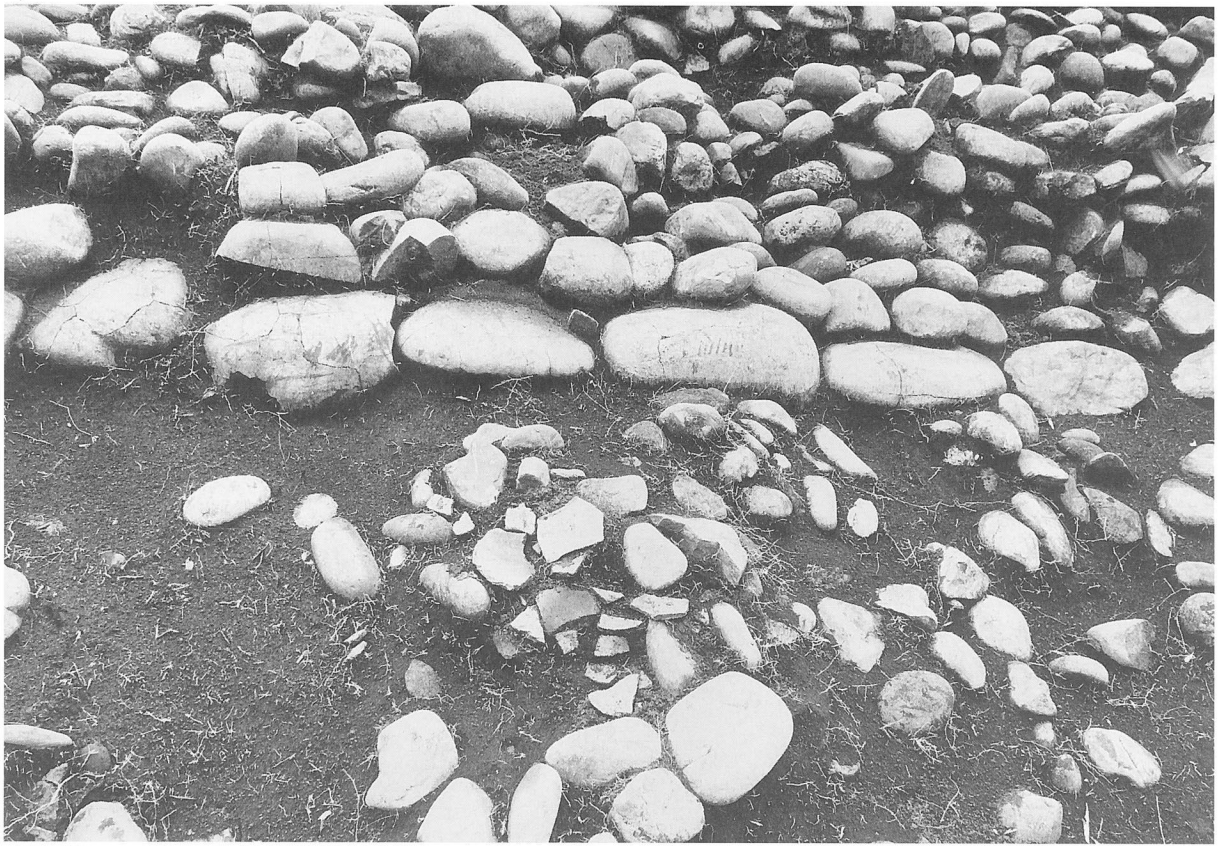
②くびれ部土器（第12図22）出土状況（後円部から）

図版2



①くびれ部土器（第12図22）出土状況

②くびれ部土器（第12図22）出土状況（崩落物除去後）



①前方部前面ニ段目テラス土器（第11図１）

②前方部Ｔ２墳頂平坦面肩部土器（第11図12）出土状況

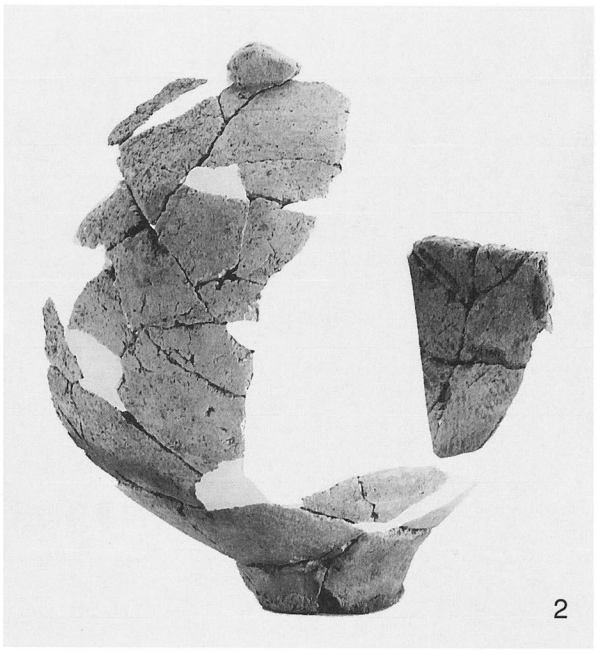
図版4

①くびれ部土器（第11図３）出土状況

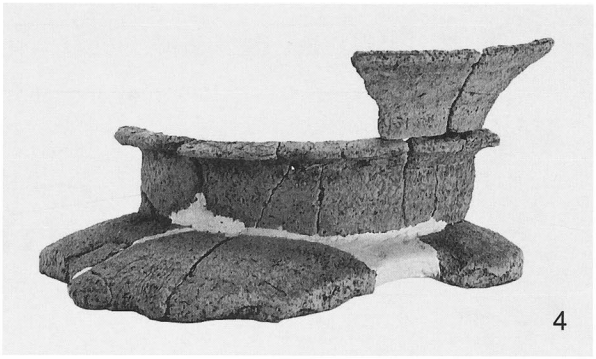
②後円部墳頂Ａ群土器（第11図16）出土状況

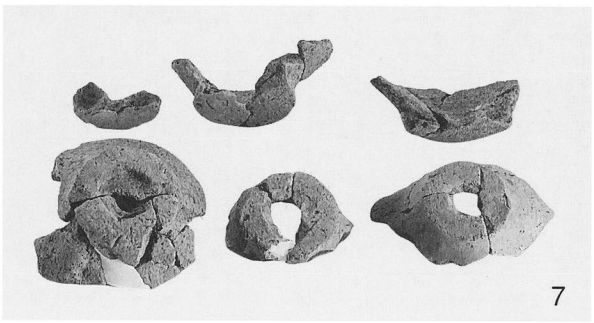
図版5

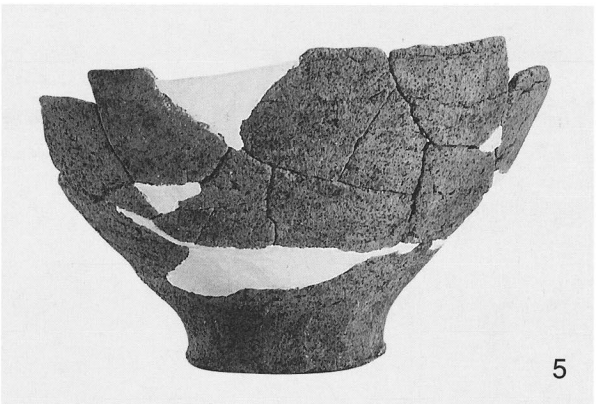
1

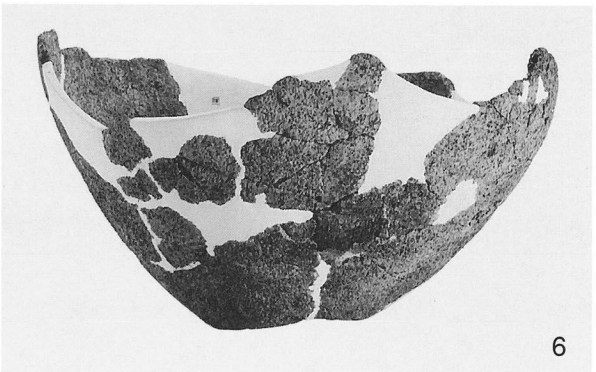

2

3


4


7


5


6

1：11－2
2：11－3
3：11－20
4：12－1
5：12－14
6：12－22
7：底部穿孔壺形土器底部

13号墳出土土器（番号は実測図に同じ）

報告書抄録

ふりがな	さいとばる　じゅうさんごう　ふん
書名	西都原13号墳
副書名	（墳丘出土古墳時代遺物編）
巻次	
シリーズ名	特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書
シリーズ番号	第2集
編集者名	石　川　悦　雄
編集機関	宮崎県教育委員会
所在地	〒880-0805　宮崎市橘通東1－9－10　TEL　0985－26－7251
発行年月日	2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
さいとばるじゅーさんごうふん 西都原13号墳	さいとし　おおあざ　みやけ 西都市大字三宅	45208		32° 06′ 30″	131° 23′ 49″	H7 ～ H9	25,000	史跡整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西都原13号墳	古墳 （前方後円墳）	古墳時代前期	墳丘 葺石	2重口縁壺形土器 単口縁壺 高坏	

特別史跡　西都原古墳群発掘調査報告書 第２集

西都原13号墳

（墳丘出土古墳時代遺物編）

平成13年3月31日

編集発行　宮崎県教育委員会
〒880-0805 宮崎市橘通東１丁目９番10号
TEL 0985-26-7251

印　　刷　田中印刷有限会社
〒880-0022 宮崎市大橋３丁目110番地
TEL 0985-28-4724　FAX 0985-20-9285